

一般財団法人アジア政経学会・2015年度の事業

アジア政経学会理事長

丸川知雄

1. 大会の開催

2015年6月13日～14日に全国大会を立教大学池袋キャンパスで開催した。共通論題セッションとして、「中国の『台頭』と周辺の『反乱』」、国際セッションとして”Beyond China Threat Theory: Perception toward the Rise of China in Different Geopolitical/Socio-psychological Settings”、「東南アジア自治体エリート・サーヴェイ分析—タイとフィリピン」を実施したほか、ウイスコンシン大学マディソン校教授のトンチャイ・ウィニッチャクーンの特設講演会“The Changing Landscape of Asian Studies: a view from the US with implications to Asia”を開催した。各セッションでの報告者・コメンテーターとして、オーストラリア、フィリピン、マレーシア、アメリカ、タイの研究者を招聘した。このほかに会員からの応募に基づく4つの自由応募分科会と7つの自由論題セッションを開催した。

2015年10月17日には常磐大学（水戸市）において秋季大会を開催した。共通論題セッションとして「アジアの現代史の中のベトナム戦争—終戦40周年—」を開催し、ベトナム、中国、アメリカの角度からベトナム戦争を検討した。このほかに、会員の応募に基づく6つの自由論題セッションが開催された。

なお、この大会以降、全国大会、東日本大会・西日本大会の呼称を改め、6月頃に春季大会、10-11月頃に秋季大会を開催することとした。各大学の事情により、6月頃に2日間の会場を確保することが年々困難になっていることから、2日間の大会を開催する時期を会場の状況に応じて春季、秋季に柔軟に変えられるようにするためである。

2. 海外の学会との交流

韓国インチョンにて2015年11月1-3日に開催されたAsia Economic Community Forum (AECF)2015に学会から会員1名を派遣し、韓国やアジアの研究者、学生たちと活発な議論を行った。

3. 学会誌の発行とJ-STAGEでの公開

学会誌『アジア研究』を以下のように刊行した。

2015年4月に第60巻第4号を刊行。特集：東アジアの平和構築—日本と中国の安全保障、

特集：日本企業と中国企業の協力関係

2015年5月に第61巻第1号を刊行。特集：中ソ関係史の再検討（1949-55年）

2015年7月に第61巻第2号を刊行。特集：朝鮮戦争と日本

2015年7月に第61巻第3号を刊行。

2015年10月に第61巻第4号を刊行。特集：現代アジアにおけるグローバル化と排他的ナショナリズム

1年間に7冊というハイペースで刊行した結果、第61巻第3号が2015年7月に刊行されて、ようやく刊行の遅延が解消された。今後は年4回の通常の刊行ペースで進める方針である。

また刊行とともにJ-STAGEに全文が登載されており、会員以外の人でも閲覧できる。

4. 定例研究会

若手研究者の研鑽の場として少人数による定例研究会を年3回程度のペースで開催している。2015年は4月26日と12月19日に開催し、それぞれ2名の若手会員が報告した。

5. ニュースレターの発行

学会の大会などの活動状況を広報し、会員間の交流を促進する目的でニュースレターを刊行している。2015年は4月28日に第43号、9月25日に第44号を刊行した。

6. 優秀論文賞

第12回優秀論文賞として間永次郎会員の「M・K・ガンディーにおけるナショナリズムと性—晩年『ブラフマチャルヤの実験』再考」『アジア研究』第58巻第4号・第59巻第1号を選出し、学会大会で表彰した。

7. 理事会・評議員会・評議員選定委員会の開催

理事会を2015年4月26日、6月13日(2回)、9月5日、12月19日、2016年3月26日に開催した。評議員会を2015年6月13日に開催した。評議員選定委員会を2015年4月26日に開催した。